

3 主題設定についての基本的な考え方

(1) 自己を見つめ、他者と共によりよく生きようとする児童とは

他者の道徳的価値に対する感じ方や考え方を受け入れながら、自分の考えを広げ、自己を肯定的に受け止める。そして、自分自身のよさを認め、他者とともにこれからの自分の生き方を更によりよいものにしようと努力する児童のことである。

(2) 考え議論する道徳の時間とは

児童が常に自己の生き方を見つめながら、みんなで多様な視点から話し合うことを通して自己のよりよい生き方を考えていく学習であると捉えた。

II 研究仮説と検証の手立て

研究仮説

道徳科において、多面的・多角的な価値に触れさせるために、児童相互の思いや考えを伝え合う学習活動を工夫すれば、自他のよさに気づきよりよく生きようとする子どもが育成できるのではないかと。

【検証の手立て】

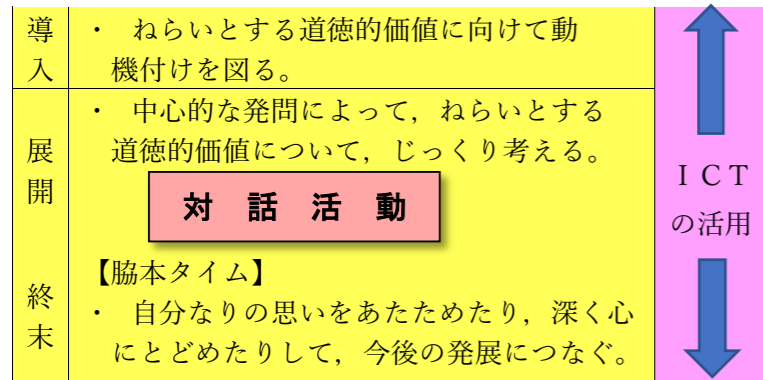
- ① 対話活動の工夫
- ② 発問の工夫
- ③ 脇本タイム（振り返り）の工夫
- ④ ICT活用の工夫
- ⑤ 板書の工夫
- ⑥ 日常の道徳的実践力を高めるための環境設営

III 研究の実際

1 対話活動の工夫

望ましい集団の中で、安心して話せる・聞ける学級風土を育むとともに、目的に応じて柔軟に学習活動を展開するために学習指導過程を見直し、対話活動を位置付けた。

(1) 学習過程の工夫



ねらいとする道徳的価値を踏まえ、道徳科の授業で児童に、何について考えさせ、何に気付かせたいのかを明確にもつことが大切です。



2

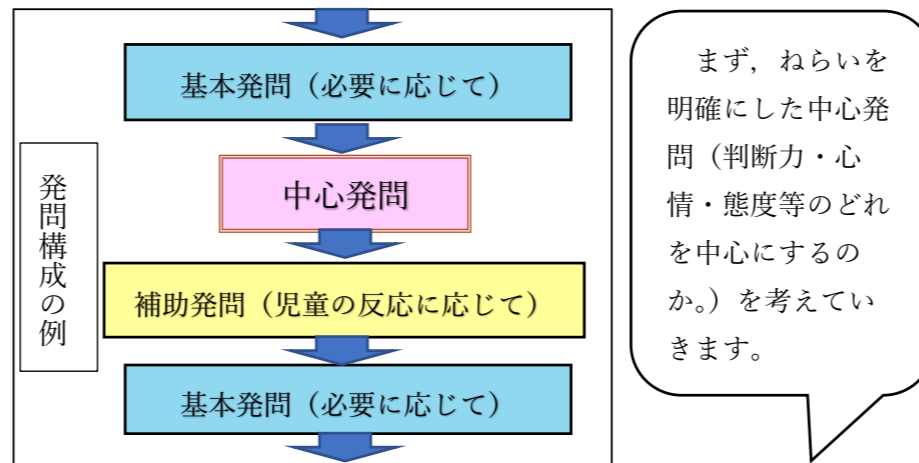
(2) 対話活動の形態



自分の考えを深めたり、多様な考えに触れたりするための対話活動の場の設定

2 発問の工夫

教師が明確な意図をもって発問することを大切にしてきた。



補助発問には、問い返したり、ゆさぶったりしながら児童の考えを深めたり広げたりする効果が期待できると考えます。



3 「脇本タイム」(振り返り)の工夫

児童一人一人が、学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめるとともに、学んだことを更に深く心にとどめ、これからへの思いや課題について考えることができるよう工夫を行ってきている。

道徳の時間の「脇本タイム」の書き方

- ① 今までの私は〇〇だったけど、これからは△△していきたいです。
- ② 今までの私は〇〇だったので、これからも〇〇していきたいです。
- ③ 今日の学習で〇〇が大切だと思った（きづいた）ので、これからは△△していきたいです。
- ④ 今日の学習で〇〇が大切だと思った（きづいた）ので、これからも〇〇していきたいです。
- ⑤ 今の自分には〇〇が足りないと思ったので、これからは△△していきたいと思いました。

思いがあっても、文章にすることが苦手の児童のために、『「脇本タイム」の書き方』を作成しました。高学年では、この「書き方」を見ずに自分の言葉で振り返りができる児童が多くなっています。



【「書き方」を参考にして（3年生）】



【自分の言葉で（5年生）】

3

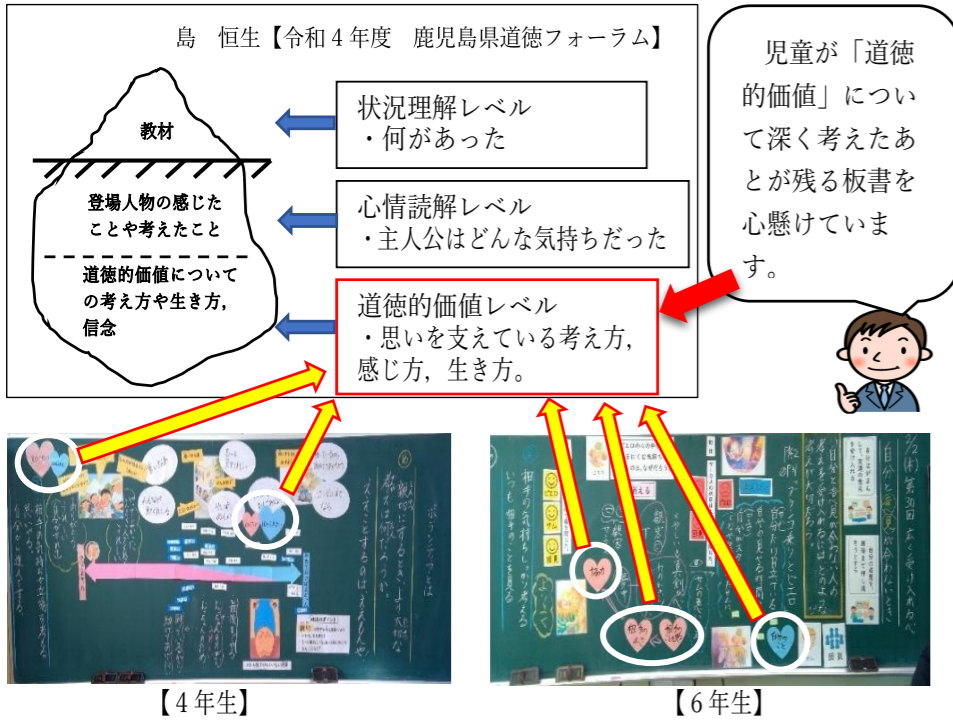
4 道徳科におけるICT活用の工夫

活動の流れ



4

5 板書の工夫



6 日常の道徳的実践力を高めるための環境設営の充実

道徳コーナー

1年生

どうとくコーナー
やすみじかん

道徳科の時間に学習した価値が分かるように板書を掲示します。その後、生活の中で折に触れて振り返ることで、生活と道徳科の時間をつなぐことができます。

3年生

どうとくコーナー

友達の「振り返り」に触れることで、多様な思いがあることに気づき、自己の生き方について考えることができます。

5年生

どうとくコーナー

中心発問で、「よさが分かっているのに挨拶をしないのはどうしてだろう。」という議論を通して、進んで挨拶をするためにはどうすればよいか考えを深めていきます。

6年生

どうとくコーナー

中心発問で、自分の目標に届かなかったとき、自分だったら「続けるか、あきらめるか。」の議論を通して、挑戦し続けることの大切さに気付かせていきます。

心のおしあと

問題意識をもたせることで、道徳的価値をより意識できるようにしています。

IV 成果と課題

1 研究の成果

- 授業の展開に沿って発問を考えることで、児童は導入部分から問題意識をもって授業に取り組み、中心発問によって自分事として考え、意欲的に対話するなど、主体的に取り組む姿が見られた。
- 振り返りをしやすい話型を提示したことで、理解した道徳的価値から自分の生活を振り返り、自らの成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるようになってきた。
- ICT機器の活用を研究することで、「自己を見つめる」、「多面的・多角的に考える」といった学習活動がより効果的に実践され、児童の道徳性を養うことへつながっていった。
- これまでの道徳科の授業について見直し、対話活動の充実、ICTの効果的な活用、「協本タイム」の充実など、多様な学習指活動を考え実践することで、私たち教師自身の意識改革へとつながった。

2 今後の課題

- ICT機器をどの場面でのどのように活用すればより効果的に「考え、議論する」道徳科の授業を実践できるのか更に研究していく必要がある。
- 児童が自らの成長を実感し、更に意欲的に取り組もうとするきっかけとなるような評価の在り方の研究を深めていく必要がある。

V 本日の授業のみどころ

3年生

中心発問で、登場人物の行動が「間違っている。」「間違っていない。」の議論を通して、相手の気持ちを考えていくことの大切さに気付かせていきます。

5年生

中心発問で、「よさが分かっているのに挨拶をしないのはどうしてだろう。」という議論を通して、進んで挨拶をするためにはどうすればよいか考えを深めていきます。

6年生

中心発問で、自分の目標に届かなかったとき、自分だったら「続けるか、あきらめるか。」の議論を通して、挑戦し続けることの大切さに気付かせていきます。

令和5年度 北薩地区道徳教育研修会
令和4年度 「みらいの学び推進事業」実践モデル校
令和4年度 阿久根市道徳教育研修会
研究のまとめ



I 研究主題について

1 研究主題

自己を見つめ、他者と共によりよく生きようとする児童の育成
～児童が「考え、議論する」道徳科を目指した授業づくりを通して～

2 主題設定の理由

